

<目的>

高齢者を始めとした全ての住民の外出機会の増加、坂道などの地形的ハンディの克服、子育て世代の定住促進、買い物等の移動手段の確保などを図るため、自動走行のデマンド交通システムや1人乗りのパーソナルモビリティなどの新たな交通手段の確保を目指し、実証実験を推進して早期実用化につなげるとともに、ニーズや効果等の調査やまちづくりにおける情報発信力を高める。また、バス、タクシーの既存交通を含めた交通ネットワークを検討し、あらゆる世代にとって魅力的なまちづくりを目指す。

<平成29年度実績（見込み）>

春日井市高蔵寺ニュータウン先導的モビリティ検討会議の開催

（開催目的）高蔵寺ニュータウンにおける自動運転車両やパーソナルモビリティ等（以下「先導的モビリティ」という。）を含む各種モビリティに関するプロジェクトを束ねる組織として設置。（座長：名古屋大学COI拠点研究リーダー森川高行教授）

（構成団体）名古屋大学、トヨタ自動車㈱、アイサンテクノロジー㈱、名鉄バス㈱、春日井市内タクシー組合、高蔵寺まちづくり㈱、愛知県、春日井市、国土交通省（オブザーバー）

（会議の趣旨）関係者間の情報共有・課題共有、適切な交通分担や事業化

（会議の開催） 第1回：平成29年10月30日（月）

- ・各団体のプロジェクト等の事例紹介や取組紹介及び情報共有
- ・各種先導的モビリティや既存バス交通等の適切な役割分担、先進技術による快適なまちづくりの実現を目指して連携することで一致

第2回：平成30年3月中を予定

①『歩行支援モビリティサービス実証実験』（春日井市、トヨタ自動車㈱）

モビリティのシェアリングサービス実証実験。片道200円、往復500円（最大2時間）で、社会受容性、サービスの事業性の把握を目的。

（日時）平成29年11月15日（水）～28日（火） 9:30～16:00

（場所）センター地区～UR藤山台管理サービス事務所

（結果）合計407件（有料68件、無料339件）の利用。利用後アンケート。

- ・自動車免許返納後は便利で利用したい。
- ・条件次第（スピード、料金）の利用意向が多い
- ・片道100円の利用意向が多い



①『歩行支援モビリティサービス実証実験』（春日井市、トヨタ自動車㈱）



歩行支援モビリティ (WHILL) 試乗の様子

④『名古屋大学COIによる自動走行実証実験』（名古屋大学COI、春日井市）



自動運転車両車内の様子

先導的モビリティに関する実施予定事業図



②『警察庁新ガイドライン対応遠隔型自動走行実証実験』（愛知県、春日井市）



自動運転車両 (アイサンテクノロジー㈱保有)

③『自動運転デマンド交通実証実験』（春日井市、名古屋大学COI、愛知県）



②警察庁新ガイドライン遠隔型自動運転実証実験（愛知県、春日井市）

運転席無人の車両を遠隔操作者が遠隔監視・操作し、公道を走行する実証実験。県内では幸田町に次ぎ2例目で、右折や信号認識による左折は県内初。社会受容性の調査のため20名のモニターが乗車予定。

（日時）平成30年2月5日（月） 12:00～16:00

（場所）保健センター～新池公園付近



③自動運転デマンド交通実証実験（春日井市、名古屋大学COI、愛知県）

モニター自宅とセンター地区を自動運転車両で往復する実証実験。子育て世帯の親子や高齢者夫婦など、異なる属性10組20名が外出や乗合乗車などを体験。

（日時）平成30年2月24日（土） 9:00～16:00

（場所）押沢台地区モニター自宅～センター地区



④名古屋大学COIによる実証実験（名古屋大学COI、春日井市）

パーソナルモビリティを活用した実証実験。ラストマイル交通を意識したもの。

（日時）平成30年3月5日（月） 13:00～15:30

（場所）石尾台ナフコ～老人憩いの家



<平成30年度予定>

高蔵寺ニュータウン内の交通の役割分担の検討

市と名古屋大学COIにより、自動運転車両、パーソナルモビリティと既存のバス、タクシーも含めた交通役割分担の検討を行い、今後のまちづくりにおける連携と活用を目指す。展開プロジェクト「交通拠点をつなぐ快適移動ネットワークの構築」を含め検討